

涼感みやざき



特集

持続可能な開発目標(SDGs)について紹介

活動レポート 平成29年度 宮崎県地球温暖化防止活動推進員全体研修

「サステイナブル」で温暖化防止！推進員の役割について

講師：澤 克彦氏

「食品ロス削減でSTOP！地球温暖化」について

SDGsのつくられたプロセス

いま世界には、気候変動や生物多様性の損失、貧困や格差、紛争や人権侵害など、さまざまな課題があふれています。SDGsは、「持続可能な社会の実現」を目指す環境課題と、「貧困をなくすこと」を目指す開発課題への取り組みを統合するため、2015年9月、「国連持続可能な開発サミット」により採択されました。

SDGs(持続可能な開発目標)には、よりよい未来を迎えるため、2030年に向けて世界が合意した17の目標と169のターゲットがあります。そこには、世界を取り巻きさまざまな問題に気づき、みんなで知恵と力を合わせ、誰もが豊かさを感じられる平和な世界を作ろうというビジョンが掲げられています。

持続可能な社会をつくるために大切だとSDGsに示された5つのP

- ・people(人間)…貧困と飢餓を終らせ、ジェンダー平等を達成し、すべての人に教育、水と衛生、健康的な生活を保障する。
- ・Planet(地球)…気候変動への緊急な対応などを通して地球を破壊から守る。
- ・Prosperity(繁栄)…すべての人が豊かで充実した生活を送れるよう、自然と調和する経済、社会、技術の進展を確保する。
- ・Peace(平和)…平和、公正で恐怖と暴力のない、すべての人が受け入れられ参加できる世界をめざす。
- ・Partnership(パートナーシップ)…国、企業、市民社会など様々な主体間のパートナーシップ(協力関係、共同、提携)を推進する。



SDGs 17の持続可能な開発目標

1. 貧困をなくす
2. 飢餓をなくす
3. 健康と福祉
4. 質の高い教育
5. ジェンダー平等
6. きれいな水と衛生
7. 誰もが使えるクリーンエネルギー
8. ディーセント・ワークと経済成長
9. 産業・技術革新・社会基盤
10. 格差の是正
11. 持続可能なまちづくり
12. 持続可能な消費と生産
13. 気候変動へのアクション
14. 海洋資源
15. 陸上の資源
16. 平和・正義・有効な制度
17. 目標達成に向けたパートナーシップ

SDGsここがポイント

先進国の人たちの暮らし方が大きな影響を与えています。

世界の問題は、複雑に影響を及ぼし合っています。途上国の貧困問題を解決するには、先進国の人たちが今のライフスタイルを見つめ直すことも大切です。

気候変動やクリーンエネルギーの拡大など、普遍的なテーマを扱っています。

SDGsは国際目標ですが、気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策の措置や持続可能な近代的エネルギーの利用確保など、足元にある普遍的な課題にも関係しています。解決のためには、地域からのアクションが必要です。

国も、地域も…みんなが力を合わせて取り組みます。

SDGsを作るための会議では、市民社会の声も大切にされました。目標の達成のためにも国や地域社会、企業や専門家などのみんなの意見や行動が必要です。

誰も置き去りにしない

これは、SDGsを象徴するキー・メッセージです。少数派や社会的弱者も含む多様性豊かな、包摂的な社会を目指します。

SDGsと地球温暖化防止

目標「7.誰もが使えるクリーンエネルギー」の主な内容

・エネルギーを節約できる技術の早期開発と再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。
『石油や石炭などの化石燃料を使用すると、大量の温室効果ガスが発生し、気候変動を引き起こすなど、悪影響をおよぼします。しかし、風力や水力、太陽光、バイオマスなど再生可能な資源から得られるクリーンエネルギーの技術を、産業や生活に採用することにより、持続可能なエネルギーをすべての人が利用できるようになります。』

目標「13.気候変動へのアクション」の主な内容

・気候変動が原因の災害や自然災害に対して、粘り強さや適応力を強化する。
・気候変動の緩和、適応、影響軽減や早期警戒に関する教育啓発により人的能力や制度機能を改善する。
『食料不足や水不足をはじめ、人間生活への大きな脅威となる気候変動は、さまざまな形で地球に影響を与えます。地域ごとにその影響に合わせた適応策を考えなければなりません。』

平成29年度 宮崎県地球温暖化防止活動推進員 全体研修

基調講演『「サステナブル」で温暖化防止！推進員の役割について』

講師：九州地方環境パートナーシップオフィス 澤 克彦氏

平成29年7月5日(水)～7日(金)、宮崎県センターでは、地域の推進員を対象とした研修会を開催し、持続可能な地域づくりの視点から推進員の役割や地域での温暖化防止活動・環境活動について、各地の事例を交えながら情報提供と意見交換を行いました。

話題提供として、九州地方環境パートナーシップオフィスの澤 克彦氏より、「協働取組」「持続可能性」といったキーワードから考え方や方向性が示されました。

地域ぐるみで課題解決するための「協働取組」が必要と話す澤氏。(温暖化防止を含む地域の環境課題に対して、様々な主体がそれぞれの強みを活かした役割分担や活動について共通理解をつくり、合意形成しながら進める方法を「協働取組」と呼びます。)

自治体や教育機関、企業やメディア、専門団体、NPOなどを巻き込みながら地域ぐるみの活動に発展させることで、相乗効果が発揮されます。また、推進員が様々な主体をつないだり、推進員相互のネットワークが広がるのが期待されます。

澤氏より協働取組の事例として、赤土対策(沖縄)、放置竹林対策(福岡)、生態系保全(鹿児島)、自然歩道(九州各地)、温泉熱利用(長崎)をご紹介いただきました。

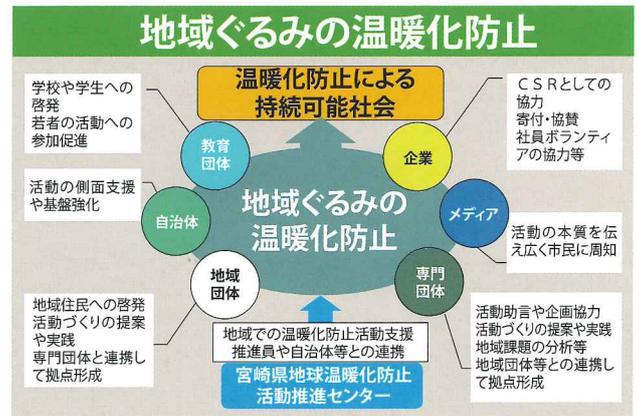
参考として「人間を支える生態系が有する能力の範囲内で営みながら、人間の生活の質を向上させること」についてと、説明されました。

そして、低炭素オタクにとどまらず、いかにオトクを伝えるかがポイント!と、お話しされ、「多くの仲間を巻き込みながら、宮崎ならではの温暖化防止活動を推進しよう!」という、ご提案もいただきました。



まとめ 推進員が推進すること

- 一人ひとりの「暮らし方」を、生活者の目線で提案する。
- 専門的な知識は専門家にまかせる。
- 専門家が持っていない、地域のつながりを活用する。
- 宮崎県センターを含む、ネットワークの一員として活動できる。



世界共通の目標としての持続社会づくり=SDGs (Sustainable Development Goals)

気候変動を含む、様々な課題を世界レベルで共有した2030年までの「目標=SDGs」が採択されました。

SDGsには、技術的・専門的なアプローチに加えて「教育」「啓発」、特にライフスタイルに関する情報と意識を持つことが重視されています。つまり、推進員の活動・役割は、低炭素地域づくりに向けたライフスタイルについて、地域の方々に情報を提供し、日ごとの生活の中で、意識を高めてもらうことにあります。

<そもそも、サステナブルとは何?>

環境活動の言葉は、公害→環境→エコ・ロハス→サステナブルと積み重なって広がってきました。サステナブルとは持続可能を意味しますが、その説明は難解です。講演では「相手と明日を考えて行動する」と位置づけ、推進員一人ひとりの行動への期待が示されました。

また、こども環境白書(下左図)では、そうめん流しの様子を紹介しながら、持続可能な社会に必要な人材育成について解説しています。

ESDによって変わる 一人ひとりの行動

流し そうめん で例えると・・・



ESDによる行動の変化



みんなが流しそうめんを食べられる社会をつくるのが、「持続可能な開発」です。

一言で言うと、

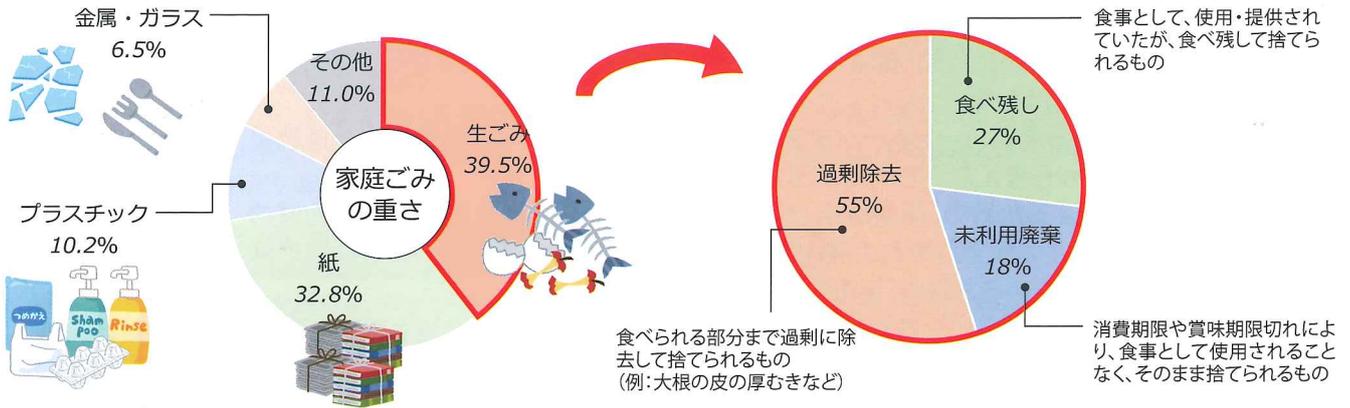
相手と明日を
考えて行動する

COOL
CHOICE

未来のために、いま選ぼう。

食品ロス削減でSTOP！地球温暖化

家庭ごみの中で最も多いのは食品ロス！
～一人ひとりが「もったいない」を意識して行動しよう～



「食品ロス」とは？



食べられるのに捨てられてしまう食品のことです。

平成26年度農林水産省の推計では、年間約2,775万トンの食品廃棄物が日本で発生しています。このうち約621万トンが、売れ残りや期限切れの食品、食べ残しなど本来食べられるにもかかわらず廃棄される「食品ロス」です。約621万トンというと、国民一人あたり毎日お茶碗1杯分(約134g)のご飯をムダにしているのと同じ計算になります。また、約621万トンのうち約半分に当たる282万トンは、一般家庭から廃棄されています。

家庭や飲食店での食べ残し、冷蔵庫などに入れられたまま期限切れとなった食品、皮の厚むきなど調理時の過剰除去による食品ロスも増加傾向にあります。



～食品ロス削減のためにできることから始めよう～

食品ロスを減らす方法(家庭編)

1. 買い物には「買い物メモ」を持てよう!

買い物をする前に冷蔵庫をチェックして、必要なものを書いた「買い物メモ」を作りましょう。本当に必要な食品を必要な量だけ買うことができます!!



2. 食べきれぬ量だけ料理を作ろう!

せっかく作った料理を食べ残して捨ててしまうのはもったいないですね。食べきれぬ量だけ作って食べ残しをなくしましょう。



3. その他

- 野菜の特性を活かした正しい保存方法の活用。
- 常備菜(作り置きできるおかず)のレシピの活用。
- 残ってしまった料理を新しい料理に大変身!! (例: 肉じゃがをカレーやシチューに変身など)



食品ロスを減らす方法(外食編)

1. 食べきれぬ量だけ注文しよう!

外食をする際、ついつい注文しすぎたりしていませんか? 残さず、食べきれぬ量だけを注文して、外食を楽しみましょう。あらかじめ量を少なくしてもらおうなど、食べきれぬ量を注文しましょう。また、食べ放題のお店では元を取るために無理をしてお皿に盛ったり、食べ残すのはやめましょう!!



食品ロス削減と地球温暖化防止

地球温暖化防止のために、節電やエコドライブなどの取り組みは行われていますが、意外に知られていないのが「食」に関する取り組みです。食料は、土地や水、エネルギーなど多くの資源を使用して生産されています。まだ食べられるのに捨ててしまうことは、食料生産に使用された貴重な資源も無駄にしていることとなります。また、廃棄された食品を焼却処理する際も地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量が増え、地球環境に悪影響を及ぼしてしまいます。

上記のグラフによると家庭から出るごみの量が多いのは、リサイクル可能な紙よりも、生ごみです。一人ひとりが「もったいない」を意識して行動することは、全頁で述べたようにSDGsの「2. 飢餓をなくす」や「13. 気候変動へのアクション」にも繋がっているのです。

宮崎県が推進する「食品ロス削減～みやざき食べきり宣言プロジェクト～」を、家庭で出来る身近な Reduce-リデュース- (ごみ減量) として皆さんも実践してみませんか?

※参考資料: 宮崎県のホームページ <https://www.pref.miyazaki.lg.jp/junkansuishin/kurashi/shizen/20160729155545.html>、宮崎県平成29年度版ごみ減量化テキスト「みんなで取り組もうごみ減量リサイクル4R」

宮崎県地球温暖化防止活動推進センター通信「涼感みやざき」

発行: 宮崎県地球温暖化防止活動推進センター (運営: 特定非営利活動法人 宮崎文化本舗)

〒880-0014 宮崎県宮崎市鶴島2丁目9-6 みやざきNPOハウス101号

電話: 0985-60-3911 / ファックス: 0985-89-4979 / メールアドレス: mccaoffice@mc3a.org

ホームページ: <http://www.mc3a.org/>